平成１０年度試験研究成果

区分	指導	題名	農村女性による加工部門の起業活動の実態と支援方策

〔要約〕
農村女性による加工部門の起業活動の展開過程は次の経過をたどっている。①ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動から技術を習得し、②自己製品への自信を深め、③販路を確保し、④設備投資を行い、⑤活動の再編を図る。
活動の問題点は、販路の開拓が困難なことと、設備や労働力が不足し製造作業が不効率であることである。
この解決のために、行政、関係団体が支援すべきことは、前者については、業者への橋渡しと販売ノウハウの提供であり、後者については、労働力に応じた計画的な運営と適正な設備投資、それに係る情報提供である。

キーワード	農産物加工	起業活動	農村女性	企画経営情報部　農業経営研究室

1. 背景とねらい

農村女性の手により地域特産物や山菜などを加工する取り組みは、加工品の商品化を図り、製造、販売をとおして利益を追求する起業活動へと展開した。近年、このような起業活動への誘導は、地域活性化の一方策として注目されている。活動事例に対する面接調査やアンケート調査により、活用資源、活動目的、運営状況などの実態と、問題点と支援の方向が明らかとなったので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) 農村女性による加工活動の特徴

ア. 農村女性による加工部門の活動は、地域内で生産された農作物や山林からの天然資源を利用しており、本県の場合、製造部門は「漬物加工」「粉加工」「ジャム製造」「豆腐･味噌製造」「工芸品製作」の大きく5つに分類できる。(表1)

イ. 活動の目的は、地域特産品の育成や技術継承への使命感や、仲間で取り組む楽しさを求めたものが多く、農作業の合間の限られた時間の中で行われている。(図1)

(2) 起業活動の展開過程

上記の趣味･仲間作りを主とした加工活動から一歩踏み出して、所得を追及する加工活動へと展開した事例から、起業活動の展開過程を整理した。(図2)

(要約)　①ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動に参加し、技術習得を行う　②外部評価を得たことから自己の製品への自信を持つ
③外部の支援を受けて販路を確保する　④自己の投資能力に応じた設備の拡張を行う
⑤労働力を確保し、自己の意思決定が成り立つ状態での活動主体の(組織)再編を行う

(3) 活動の問題点と支援の方向

ア. 活動の問題点

事業拡張を図る上での問題は、販売先の開拓が困難であることであり、活動のほとんどが地域内の販路に留まっており、販売先の手がかりがないことや、販売のノウハウが少ないことが問題である。次に構成員の時間調整などが困難なために作業が不効率であったり、設備と労働が不足していることが挙げられる。(表2)

イ. 支援の方向

(ｱ) 販売先の開拓

① 地域内外を問わず、販売業者に対する橋渡しをする。

② 製造品のパッケージや宣伝方法など地域に応じた販売ノウハウを提供する。特に、製造者の名前を挙げて顔の見える商品化に心掛け、手作りのよさや自家野菜の安全性などの強調、外部評価の明記など、一般製品との違いをアピールすべきである。(表3)

(ｲ) 製造工程の見直し

① 構成員の労働提供時間を明確にし、活動計画を策定させる。

② 設備投資については、活動の構成や運営状況に応じた投資計画を立てさせ、過度の投資を避ける。

③ 資金の調達手段がないために停滞している活動に対して、融資や補助事業に関する情報を提供する。

3. 指導上の留意事項

ア. 農村女性の起業活動は、目的、製造品目、活動の構成、製造工程、地域内販路の状況など多様であるので、多方面の専門家を交え、個別の対応が望ましい。

イ. 現行のグループ活動の中にも、起業化への意欲のある個人が潜在している。構成員の個々の意識を把握し、見込みのある人を拾い上げ、誘導すべきである。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

［農業農村整備3］－２－(2)－アー(ｱ)　地域資源の多面的活用による起業の成立条件の解明

6. 参考文献･資料

農村振興課「農村女性起業活動事例集　感性と技術が生きる女性起業」

7. 試験成績の概要

表1 加工活動の特徴

	回答数	活用資源例	製造品例
漬物加工	22	果菜(きゅうり、なす、かぶ、だいこん) 山菜(みず、しどけ) 茸	塩漬、モロミ漬、カス漬
粉加工	11	米、ソバ、大豆、小豆、きび	饅頭、もち、だんご
ジャムの製造	5	果樹(リンゴ、すぐり)	ジャム、乾燥リンゴ
豆腐・味噌の製造	10	大豆	豆腐、味噌
工芸品製作	4	わら、まゆくず、花卉(染物用ライフラワー用)	衣類、装飾品、化粧品
その他	2	レトルト食品、食用菊	

注). 起業活動に関するアンケート調査結果による。調査対象は普及活動をとおした農村女性の起業活動と、岩手県畑作振興課が取りまとめた農産物加工実態調査より個人及び任意団体を抽出した。調査数 160 件のうち回収数 80 件、その中で女性加工起業を 54 件特定した。

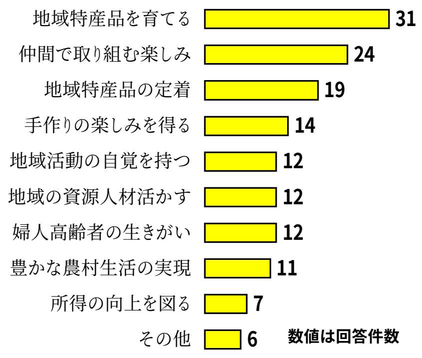

図1 活動目的

注)1. 3つまでの複数回答を求めている。
注)2. 表1と同じアンケート調査による。

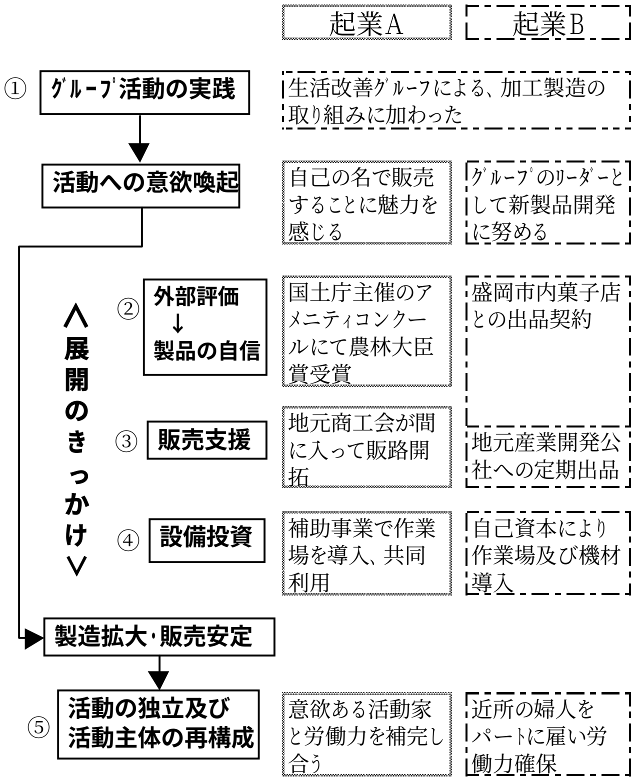

図2 起業活動の展開フロー

表2 活動を拡張する場合の問題点

ポイント

	全体	将来の意向 規模拡大 ①	現状維持 ②	差 ①-②	
販売先の開拓	1.71	1.87	1.58	0.29	
施設・機材装備	1.70	1.93	1.56	0.37	設備と労働が不足で効率が悪い
生産工程の効率性	1.68	1.69	1.68	0.01	
労働力の確保	1.66	1.36	1.81	-0.45	
行政の支援不足	1.46	1.07	1.67	-0.60	
構成員の意識	1.43	1.50	1.38	0.12	
農作業との棲み分けが困難	1.36	1.31	1.38	-0.07	
製造品の品質の安定	1.34	1.23	1.40	-0.17	
融資先の確保	1.27	1.29	1.26	0.03	
作業がきつい	1.22	1.00	1.35	-0.35	
材料調達の限界	1.22	1.21	1.22	-0.01	
関係団体・業者との連携	1.03	0.57	1.28	-0.71	
家事・近所付き合いと の調和	0.85	0.86	0.84	0.02	
全項目の平均	1.38	1.30	1.42	-0.12	

注) 1. 設問は、仮に規模拡大をするとしたらどうか、4つの選択枝から1つ選ばせた。選択肢は「問題である」「やや問題である」「あまり問題でない」「問題でない」である。また、得点は順に3、2、1、0を与え、上表は、その平均点を示している。
注) 2. 将来展望は、表4にあげた「規模拡大」と「現状維持」の回答があった活動内での平均点をあげている
注) 3. 表1と同じ起業活動を対象としたアンケート調査による

表3 起業活動の事例

調査対象	起業A	起業B	起業C	起業D
1 活動の目的	所得の向上、豊かな農家生活の実現	生活の足しにする	価値のない物を利用して収入にする	地元のものを活かす
2 製造活動 (1) 活用資源	山菜、野菜	米、ソバ粉など	花弁(地域特産品)	木の実
(2) 製造期間	9～11月 (材料調達の時期)	周年	8～11月で3回(材料調達の時期)	2、6、7、11月 (材料調達の時期)
(3) 労働力	1人	2人	3人＋パート	4人(全9人)
(4) 問題点	個人の労力の限界	個人の労力の限界 加工も農業も取り組みたい	材料の調達に手間が掛かる、パートの指示、	材料確保の限界 活動の時間調整
(5) 設備の利用	作業場を補助事業で導入、共同利用	自宅の倉庫を作業場に改造	役場から機材一式を借用、運転資金の助成	公共の施設を借りて活動している
3 販売活動 (1) 売上(1人当)	1,500千円(同額)	3,820千円(同額)	1,566千円(533千円)	100千円
(2) 販売先 ア地域内販売先	民営・公営の物産品販売所、直売所	地元の産業開発公社 地域イベントなど	民営・公営の物産品販売所、旅館	地元の産業開発公社 地域イベントなど
イ地域内割合	90%	97%	90%	100%
(4) 問題点	一般の商店では安く扱われる。		商品包装のデザイン、リピーターの得がたい商材	注文量がすくない
(5) 活動の工夫	外部評価のシールを貼る	自家原料をアピール	外部評価のシールを貼る	
4 グループ活動との関係	活動のきっかけはグループ活動だったが、個人活動に比重を移している。理由:グループ活動では、収益拡大は困難なため		気の合うメンバーで実践	生活改善グループの活動の実践